

∞ アートマネジメント講座に関する調査 ∞

調査の概要

- 調査の目的 日本における「アートマネジメント講座」の現状を調査し、その結果をアートマネジメントに関する総合情報サイト「ネットTAM」(<http://www.nettam.jp>、2004年10月1日稼動)の充実と関係者間の情報共有に役立てることを目的とする
- 調査対象 事前に各種情報源にて抽出した「アートマネジメント講座」を開講していると思われる大学・機関等、計125団体
- 調査時期 2004年7月～9月(ただし、その後も随時アンケートは受け付けた)
- 調査方法 郵送によるアンケート
- 有効回答数 44団体(有効回答率:35.2%)
- 調査実施者 ネットTAM準備委員会(現ネットTAM運営事務局:トヨタ自動車株式会社、社団法人企業メセナ協議会)
- 調査の内容 大きく5つの項目について調査・・・1)団体概要、2)アートマネジメント講座の概要、3)講座の内容、4)講座・コースの運営面について、5)その他関連事項
- 言葉の定義 本調査でいう「アートマネジメント講座」は、文化政策、企業メセナ、文化経済学、地域文化行政、カルチュラルマネジメント等の内容を含む。大学院、学部、学科、単独講座、生涯学習講座、公開講座など、講座提供者の組織形態や規模、対象者は問わない。
- 調査結果の公表 調査時に「ネットTAM掲載項目」として、公開を前提で回答を得た項目(後述[1]・[2])については、個別の団体名と共にネットTAMにて情報を公開している。

調査結果のまとめ

サンプル数が少ないため%でなくすべて実数で記載

講座の内容等について

- [1] 貴大学/大学院/機関の概要についてお答えください。 ネットTAMに個別の団体ごとに掲載
 [2] アートマネジメント(および関連)講座の概要についてお答えください。 ネットTAMに個別の団体ごとに掲載
 [3]

1) 貴大学/機関のアートマネジメント講座で特に重点を置いている分野はありますか？(複数回答) N=39

| | |
|----------------|----|
| a. 音楽 | 17 |
| b. 美術 | 14 |
| c. 演劇 | 11 |
| d. 舞踊 | 8 |
| e. 映像(映画、ビデオ等) | 4 |
| f. 建築 | 4 |
| g. 伝統芸能 | 7 |
| h. 文化遺跡・歴史的建造物 | 5 |
| j. その他 | 2 |
| k. 全般(a～hすべて) | 14 |

自由記述
 j. その他・・・都市環境、環境学習、N.I.E

2) 提供している講座の中で、下記のようなプログラムはありますか？（複数回答） N=34

| | |
|------------------|----|
| 実習・インターンシップ | 21 |
| 見学会 | 18 |
| 実務担当者を招聘しての特別講義 | 22 |
| 学生による企画・プロデュース実践 | 12 |
| その他特徴のあるプログラム | 12 |

自由記述(具体的な事例を多数いただいたが、回答団体が特定され得るものは不掲載とした)

実習・インターンシップの研修先:

- ・ アーツ・マネジメント関連では企業、行政機関、NPO 等含め全 24 団体
- ・ 近隣の文化施設(希望者のみ)
- ・ 音楽事務所、公私立文化施設、フェスティバル、オーケストラ等
- ・ 音楽事務所や公共ホールなど 10 カ所
- ・ 学科からのインターンシップで講座によるものではない
- ・ 研究室では積極的に対外的な活動、地域貢献を学生と行っている

見学先:

- ・ 美術館やアートスペース等
- ・ 京都のお寺、美術館等
- ・ 随時各種演奏会実施の会館他
- ・ 公私立文化施設を毎年訪問
- ・ ホール、劇場、企業等
- ・ 講座により可能な範囲で

招聘講師名:

- ・ 演奏者、企業のメセナ担当者または経営者を招聘予定
- ・ 音楽事務所、公私立文化施設、オーケストラ、助成財団、企業メセナ担当者、その他支援機関等の実務担当者
- ・ 担当非常勤講師が実務担当者である

学生による企画・プロデュース実践の具体例:

- ・ 商店街に他学科の学生の作品を展示するプロジェクト等
- ・ 商店街振興に関する文化イベントの実践
- ・ 学生による NPO 設立等を通して多数の研究会、ワークショップ等が企画実施されている
- ・ 産・学・官による相互乗り入れ企画の実施。
- ・ 地域の自治体施設でのコンサート企画及び運営、大学における自主公演コンサートの一部企画と運営(大学外の演奏会、学生の自主的学内施設でのコンサート)
- ・ 現在はデスクプランとその討議のみ

その他特徴のあるプログラム

- ・ 海外研修
- ・ カフェに毎週学生が企画したプロジェクト型の展示を行う等
- ・ 2004 年よりアウトリーチについて重点化
- ・ 具体的事例をビデオでみせる

- ・ 卒論に相当する卒業研究として卒業イベントの選択可
- ・ 環境学習の総合的なプロジェクトだが、学生も参加。農業体験、自然観察に加え文化的な活動もやっている。
- ・ 本セミナー用に開発したケース教材による教育メソッド
- ・ 演劇ワークショップ
- ・ 専任教員による授業以外は、ほとんどが実務経験者による演習等である
- ・ 文部省科研費による研究「日本における文化マネジメントの現状と展望」<1999.2000.2001年度>終了

3) よく使う教材をご記入ください。(複数回答) N=30

| | |
|--------------|----|
| a. 教科書 | 24 |
| b. 新聞・雑誌 | 14 |
| c. 視聴覚教材 | 19 |
| d. パンフレット・資料 | 16 |
| e. ウェブサイト | 8 |
| f. その他 | 3 |

自由記述

a. 教科書具体例:

- ・ 『アーツマネジメント概論』(3)
- ・ 『アーツマネージメントみち』
- ・ 『アートマネージメント』
- ・ 『もっと知りたいアートマネージメント』
- ・ 『21世紀のアートマネジメント』
- ・ 『アート・マネジメントの会計』(2)
- ・ 『芸術運営を学ぶ人のために』
- ・ 『芸術経営学講座(音楽編・美術編・演劇編・映像編)』(3)
- ・ 『ワン・トゥ・ワン・マーケティング』
- ・ 『Standing Room Only』
- ・ 『社会と語る企業』
- ・ 『文化政策学』
- ・ 『文化政策学入門』
- ・ 『地域文化政策の新視点』
- ・ 『メセナ・マネジメント』
- ・ 『なぜ企業はメセナをするのか』
- ・ 『21世紀の地域劇場』
- ・ 『地域に生きる劇場』(2)
- ・ 『ミュージアムが都市を再生する』
- ・ 『小出郷文化会館物語』
- ・ 『業界就職(音楽編)』
- ・ 『舞台芸術 芸術と経済のジレンマ』
- ・ 『慶応ビジネス・スクール所蔵ケース』
- ・ 『NPO基礎講座』

b. 新聞・雑誌具体例:

- ・ 朝日、毎日、読売、日本経済新聞
- ・ 朝日、毎日、読売等の学芸欄等

- ・ 日本経済新聞、日経 MJ、ハーバード・ビジネス・レビュー
- ・ ニューヨークタイムズ、日本経済新聞
- ・ 地域プロジェクトなどの切抜き
- ・ メセナに関する記事等
- ・ できるだけ多様な新聞雑誌からその時々 of 時事的トピックを用いる
- ・ 新聞各紙のビジネスおよびマネジメント関連のニュース
- ・ 地域における芸術活動の実際を知るため、地域紙の文化欄を多用

c. 視聴覚教材具体例:

- ・ 「クリスト&ジャンヌ・クロード」
- ・ 「メディチ家の画家たち」
- ・ トニー賞授賞式
- ・ CD-ROM「地域創造のすべて」
- ・ CD-ROM「CINARS2002」
- ・ DVD(2)
- ・ VTR(2)
- ・ DVD、ビデオなど自分で撮影したものを含める
- ・ オンタナデーズや記録
- ・ 外国の劇場やコミュニティ・プログラムの映像
- ・ 自作
- ・ 招聘講師がビデオ、パワーポイントなどを利用
- ・ 県内劇場の市民参加型パフォーマンス、アウトリーチ事業の VTR

d. パンフレット・資料

- ・ 図版
- ・ 地域の芸術振興の活動記録等
- ・ 展覧会カタログ、チラシ等
- ・ 博物館刊行パンフレット
- ・ 『メセナ note』
- ・ 実演団体、文化施設等のもの
- ・ 国内各種文化施設のパンフレット
- ・ 招聘講師が配布

e. ウェブサイト

- ・ アーツカレンダー
- ・ ASIAS
- ・ JCDN
- ・ 文化庁
- ・ ギャラリーのホームページ等
- ・ 地域活動に関して
- ・ 実演団体、文化施設、支援団体など
- ・ 海外の文化施設、日本の文化関係団体など

f. その他

- ・ 教員によるレジュメ等
- ・ 書籍(多種)

4) 受講生の卒業後(講座終了後)の具体的な進路を教えてください (複数回答) N=30

| | |
|-----------|----|
| a. 文化施設 | 17 |
| b. 行政 | 13 |
| c. 財団 | 12 |
| d. 民間企業 | 22 |
| e. 大学・大学院 | 15 |
| f. NPO | 9 |
| g. 進学 | 11 |
| h. 研究機関 | 3 |
| j. その他 | 14 |

自由記述(具体的な事例を多数いただいたが、回答団体が特定され得るものは不掲載とした)

j. その他

- ・ 音楽事務所
- ・ 銀行
- ・ 音楽教室
- ・ アーティスト
- ・ 無業者
- ・ まだ卒業生を出していない(3)
- ・ 学校教員
- ・ ギャラリー
- ・ ギャラリー、本学大学院等
- ・ 小学校教諭、臨時採用教諭
- ・ フリーランス(舞台監督、演劇制作、役者、音響デザイナー)
- ・ 広告代理店、一般企業
- ・ 本講座は社会人を主対象とした大学院修士課程である。学生の前・現職は、国職員、自治体職員、大学教職員、公益団体職員、マスコミ・広告会社、NPO等の社員、自営業者等、多岐にわたっている。大学院博士後期課程への進学者、教育研究職への就職者も存在。

5) 企業のメセナ担当者による講義はありますか? (はひとつ) N=38

| | |
|--------|----|
| a. ある | 15 |
| b. ない | 21 |
| c. 検討中 | 2 |

自由記述(上記で a. あるの場合) (具体的な事例を多数いただいたが、回答団体が特定され得るものは不掲載とした)

- ・ ゲストスピーカーとして、企業メセナ協議会にレクチャーを依頼
- ・ 講師が電通でメセナを研究、推進していた
- ・ 特別講義にて、毎週担当者を招聘
- ・ 学生たちと課外授業などで現場の方々にインタビューにも行く。過去に何度か特別講師として講義をお願いしており、今後も引き続き実施予定

講座・コースの運営面について

6) 講座を提供する上での課題、問題点、改善したい点がありますか？ (はひとつ) N=35

- a. ある 24
b. 特にない 11

自由記述(上記で「a. ある」の場合、「専任教員・志望学生不足、卒業生の就職、インターンシップ導入」等具体的な課題を、また問題解決のために講じている対策)

【卒業生の就職・インターン】

- ・ 卒業生の就職(2)
- ・ 就職の受け皿が乏しいのでアートマネジメントの授業を大学のセールスポイントにできない
- ・ 卒業生の就職先の確保(対策:現場との密接なコミュニケーションによる情報収集)
- ・ 卒業生の就職、専門領域の活動に対する学生の参加意欲の向上
- ・ 卒業生の就職 指定管理者制度を研究しつつ、新たな雇用先の開拓
- ・ 指定管理者制度の導入と市町村合併で、正職員の募集がほとんどなくなっている
- ・ 地方大学として卒業生の就職先やインターンシップ先の絶対的な不足
- ・ 欧米型のインターンシップ制度の導入(対策:来年度からの新カリキュラムにて対応予定)

【専任教員】

- ・ アートマネジメント・文化行政の専門の教員がない
- ・ 優れた若手教員の確保
- ・ 専任教員の必要、いくつかの(複数の)講座が必要である。
- ・ 専任教師がない。課程改革(教員養成の一本化)により授業の継続が困難になるかもしれない
- ・ 学科として社会科学系の専任教員がほとんどいないこと
- ・ 国立大学が独立行政法人になり、今後の変化に対応するためとの理由で人事が柔軟に進められない。教員が確保できないため、非常勤講師が多くなり授業と授業との関係が希薄になっている。

【講義】

- ・ 課題がわからないが、都市環境学という工学系の体系の中にいるので、アートマネジメントは本来、研究科としてはそれほどメインのものではない。本当にやろうとすると、別の枠組みをつくる必要がある
- ・ 今年度初めて「アートマネジメント論」の授業を半期2単位の科目として開講したばかりなので、受講生が250人集まってしまい、大教室による一方的な講義になっている点をまず改善せねばならない。
- ・ 大学院におけるアートマネジメントコースの設置 現在計画中

【その他】

- ・ 志望学生不足(2)
- ・ 予算不足のため交通費のみ実費支給。日当・宿泊費などはかなり減額される。将来的には交通費の至急も制限されかねない状況
- ・ 情報公開、必要な人に届く方法を探りたい。WEBの内容の充実をはかりたい
- ・ 美術以外のジャンルをどうするか
- ・ 大学内での実践に際して、いままでアーツが展開されていなかったために生じる規則の不合理性や手法、予算執行硬直化
- ・ 他分野教員の無理解

問題が「特にない」回答の自由記述

- ・ 芸術活動が文化産業のひとつとして経営対象になることを説示し、サービスからホスピタリティの時代に向けた市場構築と関連させた講座にしている
- ・ 「文化産業論」も併せて講じており、文化ビジネスとしての芸術の今日的役割、企業文化の視点が

ら見た芸術の機能を思いつくまに話している

- ・ 音楽を専門とする学生には数字は異次元世界であり、相当気を配っても「難しい」。教室に来るのがいやにならないよう雑談いっぱいの講義にするよう、時にはカラオケなどにも行くなどしている。

8) 他大学との交流はありますか？（海外を含む）（ はひとつ） N=37

- | | |
|-----------|----|
| a. ある | 15 |
| b. 予定している | 4 |
| c. ない | 19 |

自由記述(上記で「a. ある」または「b. 予定している」の場合、その具体的交流先や内容など)
(具体的な事例を多数いただいたが、回答団体が特定され得るものは不掲載とした)

- ・ インターゼミを実施(6 大学)
- ・ 他大学大学院(理学研究科を除く)との交流(平成 17 年度より)
- ・ 学生同士の下からの交流
- ・ インターゼミなど(4 大学)
- ・ 海外の舞台芸術アカデミーでの夏季海外研修における先方学生、教員との交流・研究活動
- ・ 大学院の「劇場・ホール実習」では他の大学院からの科目履修生の受入れ実績あり
- ・ 海外の大学と提携関係を結んでおり、お互いに学生を留学させている
- ・ 町づくりのインターゼミナールを実施
- ・ 学術交流、学生交流
- ・ 正式な連携はないが、研究室にきたいという学生は、いろいろな形で受け入れている。個人として文化政策系大学で非常勤を行っている。
- ・ 交換留学生や客員教授を通じて海外と、特別講義をしてくださる他大学の先生や企業の方々などとの交流
- ・ 大学間国際交流協定による交流
- ・ やってみたいが、具体的な交流が思いつかない

9) 地元地域とどのように交流を深めていきたいと考えますか？（複数回答） N=35

- | | |
|--------------------|----|
| a. 公開講座等の開催 | 27 |
| b. 地域住民との共同企画の実施 | 17 |
| c. 地元企業との産学共同企画の実施 | 17 |
| d. 地元組織・住民との恒常的な交流 | 18 |
| e. 特に必要と感しない | 4 |
| f. その他 | 3 |

自由記述

- f. その他:
- ・ 専任教員がないので大学としての組織的な活動は難しいのが現状
 - ・ 地域住民をまきこむアートプロジェクトも時々実施しているので、続けられれば良いと思う

10) 該当講座の情報を掲載したシラバス、パンフレット等がありますか？（ はひとつ） N=36

- | | |
|--------|----|
| a. ある | 30 |
| b. ない | 3 |
| c. 検討中 | 3 |

[4] アートマネジメントに関する情報サイト「ネットTAM」に掲載してほしい内容をご記入ください。

2005年8月現在ネットTAMに掲載

- ・ アートマネジメント・ニュース・ヘッドライン
- ・ 文化政策やメセナに関するデータベース(関連サイトへのリンク)
- ・ 助成金情報
- ・ 関連書籍紹介
- ・ セミナー・ワークショップ開催情報
- ・ アートマネジメントに関するFAQ
- ・ 関連情報リンク集
- ・ 他大学との交流情報やどのようにすれば他大学と交流できて、どのような内容の交流があるのか等の情報
- ・ アートマネジメント関係の求人情報、就職情報 (2)
- ・ インターン受け入れ先のリスト
- ・ 就職の募集情報のみならず、インターンシップの受け入れ、学生を主な対象とした視察研修ツアーやセミナー、ワークショップなどの情報を、全国を網羅するような規模でやってほしい

[5] 企業メセナに今後期待することは何かありますか？ (複数回答) N=32

| | |
|----------------------|----|
| a. 講師の派遣 | 14 |
| b. インターンの受け入れ | 23 |
| c. 学生の企画に対する助成 | 17 |
| d. 教材・メセナ情報の提供 | 18 |
| e. 非資金支援(場所・商品・技術など) | 5 |
| f. 資金支援 | 12 |
| g. 特にない | 0 |
| h. その他 | 6 |

自由記述

e. 非資金支援具体例・・・練習場所の提供

f. 資金支援:

- ・ 希望のアーティストへの支援
- ・ 身近なクラシック音楽演奏会開催(聴衆の意識に迎合してもやむを得ない)にかかる助成
- ・ 学生が卒業研究のプロジェクトとして優れた企画案を出し、さまざまな文化団体の助成制度に申請しても、単年度の企画だからとか、学生のプロジェクトだからなどの理解しがたい理由で不採択になる。学生たちの資質を本当に耕すのならば、良い企画には積極的な資金援助をして欲しい。本コースでは、今まで地元の企業家集団の援助が得られたり、企画の趣旨に共感する人々の寄付金をいただいたりして多彩な試みをしてきた。しかし、学生主体の企画が善意や多額の自己資金に頼ってしか実現できないとしたら、彼らの熱意は失われる。これでは絵にかいた餅だ。「自分のプロジェクトは自分でやれ」が正論ならば、「優れた企画には援助を惜しまない」もまたしかりだ。援助する方は、自分の利益に繋がるかどうかといった視点だけでなく、遊ぶ感覚が欲しい
- ・ 旅費、宿泊費などの実費の補助
- ・ 大学のサテライト講座を、大学のみならず、日本有数の現場を持つ教授陣と外国からのゲスト講師を加えて開講したい。そのための資金提供を受けたい
- ・ 個人の著作物の刊行に対する資金援助
- ・ 寄付講座

h. その他:

- ・ ケース作成に際しての取材協力
- ・ 寄付講座、共同研究など
- ・ 「c. 学生の企画に対する助成」や「e. 非資金支援(場所・商品・技術など)」にも関連するが、学生間や、社会人と学生の交流を深めることができる機会をもっと増やしてほしい
- ・ 環境学習、まちづくりなどの総合的な関連に力を注いでほしい。文化の領域は限りなく広がっているし、多様な地域連携が生まれている。
- ・ 地方の小さな大学におり、全国・東京の情報はありがたい
- ・ 総合大学の教養教育、あるいは専門教育としてのアートマネジメントを強化するような企画を後押しするようなサポートをお願いできればありがたい。

[6] アートマネジメント活性化のために何が必要だと思われますか？(自由記述) N=32

【雇用・職能】

- ・ アートマネジメントの専門的スキルを持っている人材の雇用促進に関するインセンティブの供与
- ・ すそ野をひろげ、職につける人の数をふやすことのできる環境を整備すること
- ・ 文化施設のアートマネージメント専門職の確立
- ・ 優秀な人材の活躍の場(仕事として)

【アートマネジメントの枠組み】

- ・ 現在、かなりばらつきのある(だろう)アーツマネジメント教育の、少なくとも基礎的な部分のスタンダード化
- ・ 劇場、美術館など狭い意味で、しっかりしたアートマネージメントを必要としている部分と、創造都市、まちづくり、環境学習等の広い領域のアートマネージメントは内容も、役割も、学習方法も違う。そろそろ、少し分けて考える必要があるのではないか。なにもかもごちゃ混ぜでは混乱が起きる
- ・ 研究者が現場の実態をよく把握して、実行可能な提案をする「実学」としてのアーツマネジメントを模索すべき時期に来ている。そのための会議のようなものを設置してはどうか

【教員サイド】

- ・ 学際的な教授・スタッフのコラボレーション(教員サイド)
- ・ アーツマネジメント教育の基礎部分スタンダード化のための教員の交流
- ・ 人(学生、企業人、業界人、地域社会の人々を含む)や情報の交流とそれをコーディネートする場や人材の確保
- ・ 人材養成ができる現場を経験した専門家
- ・ 現状では、現場経験の少ない大学教育担当者が多いと思われる。今後は、受講者(学生)が机上の講義より実践重視の授業展開の中で興味を引き出され、創造力と感性を養い、自らが芸術を判断できる能力を養えるような体制を準備する。

【アート教育・経験】

- ・ まず学生に基本的な知識(日本の現状)をおしえること(知らせること)。ほとんどの学生がアートマネジメント、メセナなどの言葉すら聞いたことがない。とっかかりをあたえることが第一である。(芸術文化に関心のある学生を対象とする総合文化学科ですらそうである)
- ・ アートリテラシーの普及
- ・ アートについての基礎的な勉強や経験(学生サイド)
- ・ 理屈よりも実践・鑑賞
- ・ 幼少からアートに親しむ機会を設け、アートマネジメント教育を推進する(長期的視点)
- ・ 芸術が果たすべき役割を分かりやすく丁寧に説明できること。芸術活動の享受機会を多くし、享受能力を上げること。マーケティングはそれにつける
- ・ 小学生からの文化・芸術に関する授業の重視。

【税制】

- ・ NPO 促進税制の導入
- ・ メセナ行為、活動に対する税制上の優遇措置(免税、減税など)の法制化

【情報共有、ネットワーク】

- ・ 海外・国内におけるアートマネジメント情報をメセナ協議会などで集約し、情報のネットワーク化をはかる(短期的視点)
- ・ 情報共有のためのデータの整備とアクセスの利便性の向上
- ・ 官民共同で長期的なヴィジョンに立った研究・実践プロジェクト
- ・ 大学と現場の交流

【社会に対して】

- ・ アートのもりあがり
- ・ アートそのものおよびアートマネジメントに対する人々の関心
- ・ 文化・芸術活動に関する社会への啓蒙活動の促進。

【企業・行政に対して】

- ・ 行政と企業の理解
- ・ 企業による援助の促進(国はあまり当てにしない)
- ・ 中小各企業にアートマネージャーを置いてくれたらと思う。

【その他】

- ・ 教科書的書籍の編纂(出版助成)
- ・ アーツマネージャーの専門能力を高めるための研修制度の拡充
- ・ アートビジネス業界
- ・ 活動の場づくり
- ・ メディアリテラシー
- ・ 権威に対する自由
- ・ 資金的援助
- ・ 具体的な成功例
- ・ プラグオフの生活
- ・ 貴組織のような地道な取り組み
- ・ アートマネジメント研究者はビジネスを忌避する傾向があるが、ビジネスとしてやる部分はビジネスとして、ビジネスでやれない部分はNPOで、と明確にさせた上で、ビジネスの研究も充実させるべき。

回答団体一覧 (50音順)

本調査に当たり、以下の団体にご協力いただきました。貴重な情報のご提供誠にありがとうございました。

| | |
|----------------------|--|
| 跡見学園女子大学 | マネジメント学部 マネジメント学科 文化マネジメントコース |
| 池坊短期大学 | 文化芸術学科 文化マネジメントコース |
| 桜美林大学 | 文学部 総合文化学科 |
| お茶の水女子大学 | 文教育学部 芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース |
| 香川大学大学院 | 地域マネジメント研究科 |
| 学習院女子大学 | 国際文化交流学部 日本文化学科/国際コミュニケーション学科 |
| 九州共立大学 | 経済学部 経済学科/経営学科 |
| 九州女子短期大学 | 音楽科 |
| 京都造形芸術大学 | 芸術学部 芸術表現/アートプロデュース学科 |
| 京都橘女子大学 | 文化政策学部 文化政策学科 アートマネジメントコース |
| 久留米大学 | 経済学部 経済学科/文化経済学科 |
| 敬愛大学 | 経済学部 経済学科 |
| 慶應義塾大学 | アート・センターアート・マネジメント・エキスパート・セミナー |
| 慶應義塾大学大学院 | 文学研究科 アートマネジメント分野(コース) |
| 国際基督教大学 | 教養学部 |
| 埼玉大学大学院 | 文化科学研究科 文化構造研究専攻、日本・アジア研究専攻、文化環境研究専攻 |
| 静岡文化芸術大学 | 文化政策学部 芸術文化学科 |
| 静岡文化芸術大学大学院 | 文化政策研究科 アートマネジメントコース |
| 尚美学園大学 | 芸術情報学部 音楽表現学科 |
| 尚美学園大学 | 芸術情報学部 情報表現学科 |
| 昭和音楽大学 | 音楽芸術運営学科 アートマネジメントコース |
| 昭和音楽大学大学院 | 音楽研究科 音楽芸術運営専攻 |
| 政策研究大学院大学 | 政策研究課 文化政策プログラム |
| 専修大学文学部 | 人文学科 |
| 東京藝術大学 | 音楽学部 音楽環境創造科 |
| 東京藝術大学大学院 | 音楽研究科 音楽学専攻 応用音楽学専修コース |
| 東京工芸大学 | 芸術学部 写真学科/デザイン学科/映像学科/メディアアート表現学科 /アニメーション学科 |
| 鳥取大学 | 地域学部 地域文化学科、地域学部附属芸術文化センター |
| 長崎大学 | 経済学部 経営と会計コース |
| 名古屋大学大学院 | 環境学研究科 都市環境学専攻 |
| 名古屋芸術大学 | 音楽学部 音楽文化応用学科 |
| 新潟大学 | 教育人間科学部 芸術環境創造課程 音楽表現コース |
| 兵庫教育大学 | 学校教育芸術系教育講座 |
| 法政大学 | 現代福祉学部 現代福祉学科 |
| 法政大学大学院 | 人間社会研究科 福祉社会専攻(修士課程)コミュニティデザイン系/人間 福祉専攻(博士後期課程) |
| 宮城教育大学 | 教育学部 生涯教育総合課程 文化環境コース 芸術文化専攻 |
| 宮城大学、大学院 | 事業構想学部 事業計画学科、事業構想学研究科 |
| 武蔵野美術大学 | 造形学部 芸術文化学科 |
| 武蔵野美術大学大学院 | 造形研究科 美術専攻 芸術文化政策コース |
| 山梨大学 | 教育人間科学部 生涯学習課程 芸術運営コース |
| 立教大学大学院 | 文学研究科 比較文明学専攻 |
| 立教大学大学院 | 21世紀社会デザイン研究科 比較組織ネットワーク学専攻 |
| 琉球大学 | 教育学部 島嶼文化コース 音楽教育専修 |
| 和光大学 | 表現学部 芸術学科 |
| 早稲田大学 | 第二文学部 表現・芸術系専修 |
| NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ | アート教育プログラム「MAD (making art different)」 |

アートマネジメント講座に関する調査

発行日 2005年7月
発行 ネットTAM運営事務局(トヨタ自動車株式会社、社団法人企業メセナ協議会)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 第一鉄鋼ビル1階(企業メセナ協議会内)
TEL:03-3213-3397 / FAX:03-3215-6222
E-mail:kmk@mecenat.or.jp / URL:http://www.nettam.jp

© ネットTAM 運営事務局 Net TAM All rights reserved